

**4K/120P 撮影対応のデジタルシネマカメラ「EOS C300 Mark III」を発売
新開発の「DGO (Dual Gain Output) センサー」を搭載**

キヤノンは、映像制作機器 CINEMA EOS SYSTEM の新製品として、新開発の「DGO センサー」採用により広いダイナミックレンジを実現するとともに、4K/120P のハイフレームレート記録に対応したデジタルシネマカメラ「EOS C300 Mark III」を 2020 年 6 月下旬に発売します。



EOS C300 Mark III
*「CN-E85mm T1.3 L F」装着時

新製品は、映像制作や放送用コンテンツ制作など、さまざまな撮影現場で好評を得ている「EOS C300 Mark II」(2015年9月発売)の後継機種です。従来機種から基本性能を刷新するとともに、上位機種「EOS C500 Mark II」(2019年12月発売)と同じく、ユーザーが撮影現場に応じて自由にカスタマイズできるモジュールデザインを採用し、幅広い映像コンテンツの制作に対応しています。

■ プロの映像制作に応える多彩な映像表現

1つの画素出力に対して異なるゲイン^{※1}で出力することで低ノイズのHDR動画を生成する新開発の4Kスーパー35mmのCMOSセンサー「DGOセンサー」により、明暗差の大きい環境でも、像ブレがなく、豊かな階調を持つ4K/60Pの高画質な映像を撮影することができます。また高速処理が可能な映像処理プラットフォーム「DIGIC DV 7」を搭載し、スロー再生時でも滑らかな映像表現ができる4K/120Pのハイフレームレート記録に対応するなど、プロの映像制作に応える多彩な映像表現を実現します。

■ さまざまな撮影スタイルに対応できる優れた拡張性

「EOS C500 Mark II」同様にユーザーが撮影現場に応じて自由にカスタマイズできるモジュールデザインを採用しており、小型軽量を生かしたドローン撮影から、拡張ユニット(別売り)を装着した複数台のカメラによる撮影まで、さまざまな撮影に対応します。またマウントキット(別売り)により、ユーザー自身でEFマウントから、EFシネマロックマウントやPLマウントに交換できます。

■ 4K/HDR映像の制作をサポートする2つのビデオフォーマット

映像の情報量を維持しながらデータサイズを軽くできる「Cinema RAW Light」を採用し、外部レコーダーを使用せずにRAWデータを本体内部に記録できます。さらに、動画データを圧縮し効率的に記録する「XF-AVC」にも対応し、編集作業の効率化をサポートします。またCFexpress Type BカードとUHS-II規格のSDカードを使用できます^{※2}。

製品名	希望小売価格	発売日
EOS C300 Mark III	オープン価格	2020年6月下旬

※1 画素からの出力信号の増幅度。

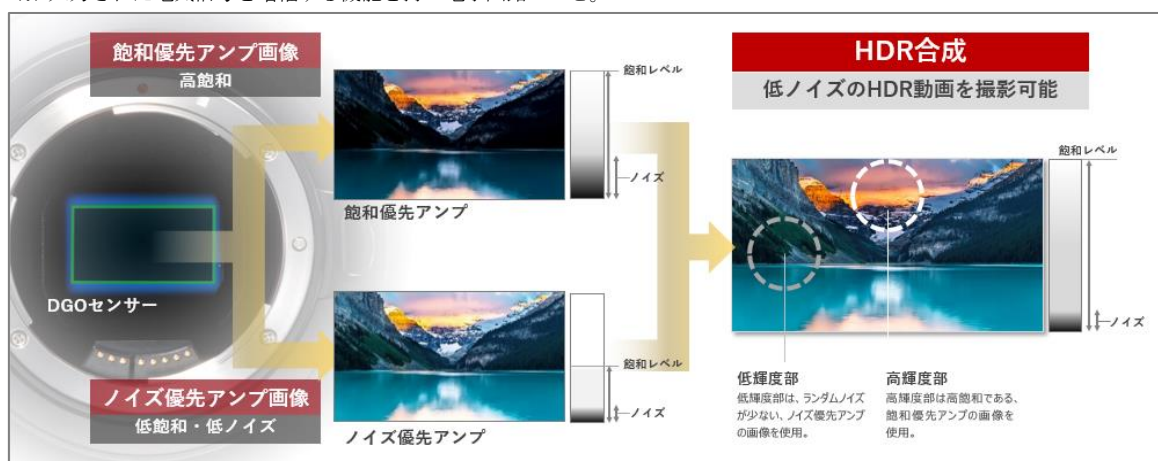
※2 「Cinema RAW Light」は、CFexpress Type Bカードにのみ記録可能。

● 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター 050-555-90006
● CINEMA EOS SYSTEM ホームページ : canon.jp/cinema-eos

<主な特長>

1. プロの映像制作に応える多彩な映像表現

- ・1つの画素出力に対して異なるゲインで出力することで低ノイズのHDR動画を生成する、新開発の4Kスーパー35mmのCMOSセンサー「DGOセンサー」を搭載。明るい部分は飽和優先アンプ※の画像を使い、暗い部分はノイズの少ないノイズ優先アンプの画像を使うことで、撮影した画像をHDR合成し低ノイズを実現。明暗差の大きい環境でも、像ズレがなく、豊かな階調を持つ4K/60Pの高画質な映像を撮影可能。
 - ・高速処理が可能な映像処理プラットフォーム「DIGIC DV 7」の搭載により、4K/120Pのハイフレームレート記録が可能。スロー再生時でも滑らかな映像表現ができるなど、プロの映像制作に応える多彩な映像表現を実現。
 - ・動画撮影に適した滑らかなAF動作と高い追従性を持つ「デュアルピクセルCMOS AF」により、厳しい合焦精度が求められる撮影時でも、撮影スタイルに合わせて高精度なピント調整が可能。
- ※ 入力された電気信号を増幅する機能を持つ電子回路のこと。



新開発の「DGOセンサー」によるHDR動画の生成イメージ

2. さまざまな撮影スタイルに対応できる優れた拡張性

- ・マウントキット（別売り）を使用することで、撮影環境や目的に合わせてユーザー自身でEFシネマロックマウントまたはPLマウントに交換することが可能。サービス店への持ち込みが不要となり、映像表現や撮影目的に合わせた柔軟な撮影システムの構築をサポート。
- ・小型軽量を生かしたドローン撮影から、拡張ユニット（別売り）を装着した複数台のカメラによる撮影まで、さまざまな撮影スタイルに対応。
- ・本体寸法約153mm（幅）×148mm（高さ）×168mm（奥行き）、本体質量は約1,750gと小型軽量を実現。



“EOS C300 Mark III” と従来機種「EOS C300 Mark II」の本体寸法の比較イメージ

3. 4K/HDR 映像の制作をサポートする2つのビデオフォーマット

- ・映像の情報量を維持しながらデータサイズを軽くすることができるビデオフォーマット「Cinema RAW Light」を採用し、外部レコーダーを使用せずに RAW データを本体内部に記録することが可能。
- ・動画データを圧縮し効率的に記録するビデオフォーマット「XF-AVC」にも対応。従来の圧縮方式「Intra Frame[※]」に加え、前後のフレームの差分を圧縮し、高圧縮で長時間の録画ができるフレーム間圧縮方式「Long GOP」を追加し、編集作業の効率化をサポート。
- ・記録メディアは、CFexpress Type B カードと、SD カードの UHS-II 規格に対応。
- ・CFexpress Type B カードスロットを2基搭載することにより、2枚の記録メディアにデータを同時記録できるため、データのバックアップや受け渡しに有効。RAW 撮影時だけでなく、新たに「XF-AVC」撮影時でも、同時にSDカード（1枚）に Proxy データを記録可能。
- ・HDR 方式は、放送やライブ配信に適した「HLG (Hybrid Log-Gamma)」と映画制作やネット配信に適した「PQ (Perceptual Quantization)」に対応。
- ・キヤノン独自の Log ガンマ「Canon Log 2」「Canon Log 3」を搭載。撮影後のカラーグレーディングで画質の作りこみを行うことを重視した「Canon Log 2」と、階調を整える程度の簡易なカラーグレーディングを可能にする「Canon Log 3」を備えることで、映像制作の意図に応じて最適な Log ガンマを選択可能。

※ 1フレームごとに圧縮し、カット編集や映像の切り出しなどの編集に適した高画質な圧縮形式。

<ご参考：CINEMA EOS SYSTEM のデジタルシネマカメラについて>

キヤノンは、2011年11月、映像制作用のレンズやカメラで構成する CINEMA EOS SYSTEM を新たに立ち上げ、2012年1月にデジタルシネマカメラ初号機「EOS C300」を発売し、ハリウッドをはじめとする映像制作市場に本格的に参入しました。同年内に、上位機種「EOS C500」、小型軽量機種「EOS C100」、デジタル一眼レフカメラ「EOS-1D C」を発売し、CINEMA EOS SYSTEM のラインアップを拡大。その後、「EOS C700」、「EOS C200」など新たなラインアップを加えながら、5.9K フルサイズセンサーを搭載した最上位機種「EOS C700 FF」を発売するなど、4K 化や HDR 制作、ワークフローの多様化など、大きな転換期を迎える映像制作の世界において、高精細な映像表現を求める制作現場の多様なニーズに応えてきました。

このたび、キヤノンは、新開発の DGO センサーを搭載する“EOS C300 Mark III”を投入することでユーザーの映像表現の幅を広げるとともに、シネマカメラのラインアップを強化します。高品位な映像が求められる映画やドラマから、機動力が重視されるニュースやドキュメンタリーまで、映像制作現場におけるプロの幅広いニーズに応え、映像文化の発展に貢献していきます。

製品名	発売年月
EOS C300／EOS C300 PL	2012年1月より順次 ^{※1}
EOS C500／EOS C500 PL	2012年10月 ^{※1}
EOS C100	2012年11月 ^{※1}
EOS-1D C	2012年12月 ^{※1}
EOS C100 Mark II	2014年12月 ^{※1}
EOS C300 Mark II	2015年9月
EOS C700／EOS C700 PL／EOS C700 GS PL	2016年12月より順次 ^{※2}
EOS C200／EOS C200B	2017年7月
EOS C700 FF／EOS C700 FF PL	2018年7月
EOS C500 Mark II	2019年12月
EOS C300 Mark III	2020年6月（予定）

※1 生産終了。

※2 「EOS C700 PL」は国内未発売。

デジタルシネマカメラのラインアップ

<映像制作機器の市場動向>

映像制作業界のデジタル化に伴い、映画などの制作現場で 4K 映像への対応が急速に進むと同時に、放送業界でも 4K 放送の実用化に向けた取り組みが各国で始まっています。入力から出力まで、映像制作ワークフローの 4K 化が進むことにより、機材が高精細・高画質であることはもちろん、高解像度化するほど難しくなるピント合わせや、多様化する撮影スタイルにも応える操作性や運用性を兼ね備えたカメラへのニーズが増えています。(キヤノン調べ)

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。